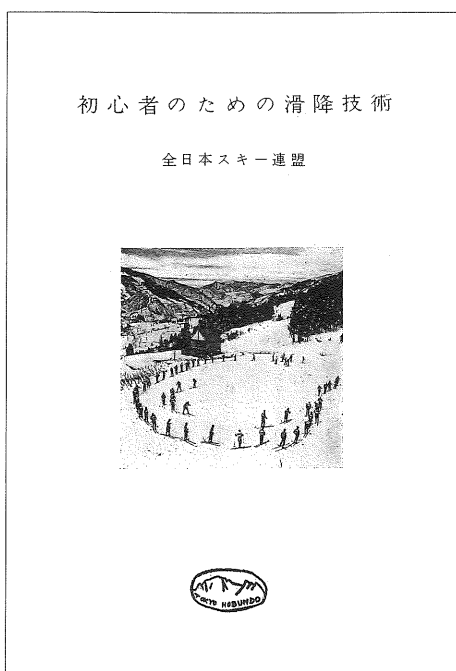


で、スキーも急速に復活してきた経緯がある。2年後の1952年には、「指導者研修会制度」が制定され、技術章も1級から5級までの5段階となる。

1955年（昭和30年）SAJは、スキーを楽しむ人たちの急増に対応して普及本として、「初心者のための滑降技術」全50頁の発刊もしている。



昭和30年発刊の技術書

1957年（昭和32年）SAJは、「準指導員制度」を新たに制定した。スキーヤーの増加と共に、スキー指導員の有資格者も年ごとに増えたものの、検定の狭き門はその実態に追いつかずの現状が続く中でのことである。この準指導員の検定は、SAJの加盟団体（都道府県連盟）が主管して実施し、資格は「SAJ公認準指導員」として認定することとしたことは、実情に即し正解であったと思う。

さらに、経済の発展と共にスキーヤーのための用品用具の改良、スキー場の新設、整備など、環境が改善されスキーブームと言われるようになる。

この状況の中で、SAJ公認指・準指導員はクラブ活動を中心の、趣味の範囲から脱し、社会に認められる広角で奥の深い活動内容になってきたのである。クラブ内の活動にとどまらず、小・中・高・大の学校や、公共機関や新聞社などマスコミ、会社などと普及に活動した。また、スキー場のある雪国の指導者は、スキー場経営者と地域と協力し合い、スキー大会の開催運営、常設スキー学校の開設、スキー場のパトロールなどにも活動してきた。

1958年（昭和33年）、オーストリアからルディー・マット氏、1963年（昭和38年）には、クルッケンハウザー教授を招聘し、特別講習会を開催し、全国の多くの指導者が受講した。

先進国のスキーの技術と指導法を学び、日本のスキー界に好影響を与えた。

1961年（昭和36年）には、「SAJスキー大学」が新たに実施されている。

また、同年に本題からそれるが、SAJは全国各地のスキー場で「スキー傷害事故が多発」という現状の中で、世論の要請を受け「第1回SAJ公認スキーパトロール検定会」を万座温泉で開催し、第1期生17名を誕生させた。SAJは木原会長以下20名が出席するという熱の入れようであった。スキー傷害に対してSAJの見事な対応と言える。

それを契機にスキー場の安全対策が確立され、スキー場にSAJ公認パトロールの常駐体制が整ったのである。

また、1964年（昭和39年）に「第1回デモンストレーター選考会」が開催されている。

1967年（昭和42年）、SAJは「公認スキー学校制度」を制定し公認した。

公認したスキー学校は、320校にもなった。雪国の若者は積極的に指導者の資格習得と共に、地域



示範するクルッケンハウザー氏

の要請も受け、以前から任意のスキー学校を開校し、指導に励んでいたのである。その後、SAJは主任教師研修会、全国校長会議の出席などの義務付けをした。

また、毎年「全国スキー学校アニバーサリー」を開催し、レベルアップと親睦を図り、公認スキー学校の充実を図った。

1973年（昭和48年）長く続いた「SAJスキー教程」の名称を、現在の「日本スキー教程」に名称を変更した。

現在の「日本スキー教程」は、2014年（平成26年）に改訂出版されている。

1981年（昭和56年）SAJ傘下の「日本スキー学校協議会」が発足した。

1983年（昭和58年）SAJ傘下の「日本スキー指導者協会」が発足した。



キッズスクールの様子

1987年（昭和62年）文科省がアスリート強化育成とは別に、楽しみや健康のスポーツを推進するための「社会体育指導者」の資質向上を目標に、新制度設立を掲げ動き出した。マスコミも注目し「スキー、水泳、テニス」など、楽しむ層の厚いスポーツの指導者育成に、大きな期待を抱かせた記事が新聞紙上にも載った。スポーツの「国家認定の指導者制度」の動きである。

当然のごとく、SAJはその制度を受け入れるべく動き出したが、反面、様々な問題点も出てきた。

SAJ指導者制度はどうなるのか・・・「残るのか、残らないのか、残すべきである」と・・・それに対して1990年（平成2年）の文科省の回答は「新制度に移行するので残らない・・・」との見解を示したのである。

SAJは過去の実績を踏まえたうえで、官民一体となって将来に向かい「指導者育成」に、進むべきという考えであったが、その回答によって先が見えない状態が続いた。

その後のSAJの活動によって、1991年（平成3年）11月5日、文科省からSAJの指導者制度は「当分の間の存続を認める」という内容の回答を得た。この「当分の間」を足掛かりに、「SAJ指導者制度」存続のための長い活動が続いたのである。

1999年（平成11年）6月16日、文科省、日体協、SAJの三者で協議した結果、「歴史的背景が変化した現状を認識し、SAJのスキー指導者制度の、スキー界に与えた歴史的背景を考慮し、SAJ指導者制度の存続を認める」という回答があり、ようやく決着したのである。「当分の間」から8年間に及ぶ長い活動であった。

私事であるが、その活動が始まった頃の1990年（平成2年）11月、アルペン部長から教育本部長への突然の移動を命ぜられて、その混乱の中に飛び込むことになった。

文科省、日体協、加盟団体など、あちこちと飛び歩いたことを思い出す。

その中で、SAJは臨時評議員会も開催した。定款から「アマチュア」の文字を抹消したのもこの時である。

この解決のため、中にあっては堤義明会長、八木佑四郎専務理事、外にあっては田英夫日本スキー指導者協会会長（参議院議員）はじめ、多くの尽力された方々の顔が浮かび、その行動を忘れることはできない。こうして「SAJ指導者制度」は存続したのである。